



竹原 泉議員

## 知名度アップのため の情報発信を

**議員** 90年前、貨物船「陽明丸」で戦乱の中ロシアの子ども800人の命を救った船長「茅原基治」さんが笠岡出身であった事が判明した。  
この偉大な功績を取り上げ内外に情報発信すべきと思うが。

**教育長** 今から100年ほど前の時代にこうした人道的な出来事があったことは、とても心温まるものだ。

今すぐにこれを取り上げていくということは考えていないが、研究してみたいと考えている。



## 子どもの貧困へ有効な 対策を

**議員** 子どもの貧困率は2012年度厚労省調査で過去最悪の16.3%、6人に一人で、格差拡大の悪循環の要因の一つだが、笠岡市において実態把握や有効な対策を考えているか。

**市長** 実態の把握については子供の貧困率に最も近い指標は、就学援助の援助率が実態を反映していると考える。就学援助率の推移は、年を追うごとに上昇している。平成27年6月1日現在、小学生14.2%、中学生14.5%となっている。対策については、教育の支援、各種の経済的支援等に現在も取り組んでいるが、貧困の連鎖からの脱却を支える施策も今後も検討してまいりたい。



藏本隆文議員

## これからの笠岡市のビジョンと 実施策は

**議員** 産業振興ビジョンの3本柱と定住促進についてそれぞれ伺う。  
①企業誘致にあたり、笠岡市のメリットは何か。その対象企業はどのような業種が考えられるのか。

**市長** 自然災害が少ない。物流の優位性。福山、倉敷があり労働力が確保しやすい。業種は、運輸業や食品製造業を考えている。

**議員** ②地元中小企業振興・起業支援についてはどう考えるのか。

**市長** 事業所の現状把握を進め、情報発信できるように、事業所に働きかけていきたい。産官学金の交流会、企業マッチング、取引支援、開発支援等を考えている。

**議員** ③観光振興施策はどうか。



笠岡諸島

**市長** 交流による経済活性化を目指す。島しょ部の豊かな自然環境、広大な干拓地の地域資源を生かした観光産業振興が必要。広域的連携によりさらに効果的になる。実施策としては、新たなツアーの企画、調整、商品化を進める。地元との協力は、地元振興に繋がる施策にならなければならない。

**議員** ④定住促進についてはどう考えているのか。

**市長** 高齢者については、だれもが住み慣れた地域でその人らしく暮らせるよう、地域包括ケアシステム構築が重要。子育て世代では、望む数の子どもが安心して産み育てることができる。子供については、安心して生活できることが肝要と考える。